「18歳選挙権って何？」「主権者に『なる』とは？」

―「第11回子どもと教育を考えるつどい」―

2月27日(土)、長崎県教育文化会館で「子どもと教育の未来をひらく長崎県民の会」(事務局：高教組)が主催する「第11回子どもと教育を考えるつどい」(以下、「つどい」)が開催され、高校生12人、教職員・市民団体43人(高教組29人)が参加しました。今年度の「つどい」では、活水高校の山口響さんのワークショップを含む基調講演、N-doveの筒井涼介さんの特別報告を受け、山口、筒井両氏と高校生2人によるパネルディスカッションが行われました。

長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館
長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 小田 誠
購読料一部10円
組合員は組合費に含む
メールアドレス
naga-kks@fsinet.or.jp

高校生の発言・感想

参加した高校生の発言です。

○同じ高校生の率直な考えが聞けて良かった。

○もっと政治的話題に自ら関心を持とうとする気持ちをもつことが大切だと思った。

○政治が分からないので選挙はポスターの顔で選んでしまいそう、正直政治には関心がない

○「問い」を探すのは難しいけど、とても大事なことだと思いました。授業では話を聞くことが多いけど、たまには色んな人と話し合う時間もあったほうが良いと思いました。

発言の機会がなかった高校生の感想です。

○昨年の安保法案の際に友人と話をしようとしても、あまり意見を持っていなかったりして、学校で話す機会はなかったけど、これから学校の教育方法などが少しでも良い方向に変わり、学校で政治や社会について話し合うことがあたり前になる日本になればいいと思う。

基調講演のワークショップ
教員と高校生が「疑問出し」

教職員・おとなの発言・感想

○「問いを自ら生み出す」能力が高校では最もなされていないという点についてハッと気づかされた。地歴・公民科の担当として授業の改善、工夫の必要性を痛感した。

○主権者になるとは「自分の暮らす社会は自分たちで変えることができる」という意識を育てることだと思った。

○主権者意識を育てる授業スタイル、すばらしい取り組みだと感じました。押しつけではなく、自分の中から発する疑問を育てていく教育がスタンダードになれば、多くの社会問題がより豊かな感性をベースに解決(成熟)へ向かうのではないかと想像します。

○知的障害の特別支援学校でどこまで自分で考える力を引き出せるか難しいところです。

○18歳選挙権ってどういうことなのか、大人の側からだけでなく、当事者、子どもと一緒に考えるという企画は貴重だと思います。

○特別支援学教育の領域に「自立活動」がある。意見表明できる力を身につける目的で「話し合い活動」があり、賛成・反対の意見を言うことを指導すると、生徒の一人が気の効いた発言をすると全員が「賛成」ですと同調していた。確かに聴覚障害を持つ者は自分の理解しやすい意見に賛同する傾向にある。

政治に真摯に向き合う、真の主権者教育を

18歳選挙権は世界基準ですが、日本ではようやく始まります。7月の参院選に向けて主権者教育・有権者教育推進として模擬投票で政治や選挙に関心を持たせることや投票に行く、選挙違反をしないことを学校に「指導」することが求められています。しかし、その前に選挙権を行使する意味や「主権者って何なのか」、「主権者にどうなるのか」、「政治にどう向き合うか」、この機会を上手に生かすには「問い」について考える場として「つどい」を開催しました。

問いを設定する力をつけると主権者になる

この現状を踏まえ、活水高校の山口響さんが「主権者に『なる』とは？」の演題で、活水高「長崎平和学」の取り組みを中心に基調講演をおこないました。

「課題・問いを自ら設定できる力をつけることが、主権者に『なる』ということ」につながると指摘し、「疑問出し授業」の実践を紹介しました。同時に、参加者全員参加してのワークショップを行いました。

「問い」そのものを生徒に出させるとは、世の中の問題を自分の問題として考える、ニュースで素朴な疑問を持つために必要なことです。そしてこの「問いを自ら生み出すこと」が高校では最もなされていないと指摘し、主権者教育はふだんの教科教育から始まることを強調し、「主権者教育」を別枠にして囲い込んではならないと述べました。

「疑問出し」とは、まず「自分の中に基準をつくることが必要であり、次に「自分にとって何が関心があることなのか、大事なことなのかをはっきりさせること」そして「自分のことと世の中のことをリンクさせること」が「主権者に『なる』」ために大切だとまとめました。

N-doveの筒井涼介さん(大学4年)は中高時代では政治を扱った授業で印象に残ったものはあまりなかったが、政治に関心はあった。

パネルディスカッション―高校生からの率直な意見が続出

山口さんからは義務として投票に行くのか、一票で政治を変えるのか、「疑問出し授業」の意味を考えてほしい、筒井さんからは暮らしと政治の密接な関係が述べられ、今の暮らしが豊かなのか高校生のみなさんへの問いかけを含んで提起がなされました。

提起を受け、フロアーの高校生から、「奨学金を借りて大学進学するが、卒業後の返済の不安を解決できる政治を期待する」「若者向けの政策を示して欲しい」「社会に出ていないのに選挙に行っていいのか分からない」など率直な発言がありました。

山口さんは、社会人という言葉を引き合いに出し、高校生は透明人間でなく、高校生も社会の中で生きている意識を持って、生活と政治を結びつける問題意識をもってほしいと訴えました。

筒井さんは「日本を変えたいのなら、選挙に行って投票しよう」と18歳からの選挙権を自分のために生かす絶好の機会ととらえようと発言しました。

ディスカッションを終え、高校生パネラーは「今日は突然の代理で参加したけど参加できてよかった」「政治ってややこしいし、勉強のこと、友人のこと、部活のことで忙しくて、今日のお話のようなことを考えたり、とりくんだりすることに至っていない高校生は多いと思うけど、分からないからでは何も変わらないし、選挙に行かないといけないと思う」と結びました。

SEALDsに刺激を受け仲間とともにN-doveを立ち上げ、戦争法の廃止と、今こそ政治を変える時だという強い思いを語りました。

参加した高校生が 後日まとめた文章です

先日、新聞部で高校生と大人が18歳選挙権について意見交換をする会に参加しました。

私は今まで選挙についてあまり関心がなく「まだ社会人じゃないから分からない」というふうに考えていました。だから大人から「18歳に引き下げられたことで起こる問題は何だと思う」という質問に対して「まだ社会に触れていないのによく分からないまま投票することなのではないか」と答えました。しかし、いろいろ大人の方の話を聞く中で、本当に問題なのは「与えられた権利をよく分からないという理由で活用しないこと」だと考えるようになりました。昔、選挙権がなかった女性たちは苦労していました。そして、選挙権を求めて努力をし、ようやく手に入れたのです。今、若者は求めなくとも向こうから選挙権が与えられています。しかし、若者の投票率は低く、高齢者の投票率が高いのが現状です。当然、投票率の高い高齢者に向けての政策がたくさん行われています。私たちが一票を大切に投票に行くことで、投票率が上がり「若者は政治に対して関心がある」と捉えられ、若者に対しての政策ももっと行われるようになると考えられます。

「行動していないのに後から何も言うことはできない」という話が出てきましたが、何事もわからないとか、否定をする前に自分で行動を起こすことが大切なのです。

高校生も社会の一員です。私たちが得たこの権利に対して関心を持たなければいけないと思いました。何事にも言えることですが、自分の身の回りのことをプラスに捉えて、うまく活用することが大切です。選挙権も持っているだけ使わなければ無いのも同然。自分の一票を大切にしたいですね。

支部便り

【諫早支部】

2月19日の夜、諫早支部の退職慰労会を、諫早市の「魚荘」で開催しました。

今春退職されるのは、西陵高校の松尾博史先生、山口俊行先生、諫早高校の山口恵美子先生の三人の先生方で、三人共英語科で、山口先生はご夫婦で退職というユニークなメンバーをお迎えしての会となりました。冒頭、本部、高退協のご挨拶のあと、支部のお祝いを贈呈し、末吉先生の音頭で乾杯し宴の時間となりました。その後、三人の先生方からそれぞれの教職員生活を振り返りながらのお話を伺いました。お人柄もあり、ほのぼのとおしたお話の中で、組合に対するそれぞれの思いも述べていただきました。総勢２０名の会は、それぞれの先生にゆかりの先生が旧交を温め、またそこから新たな縁がつながるあたたかい宴となりました。来年以降もまた「うなぎ　おーいし」慰労会を続けていきたいものです。

【長崎支部】

2月19日の夜、長崎支部の退職者慰労会が、駅前の割烹「とし」で開かれました。

長崎南分会の菊池康先生、長崎工業定時分会の田中玲子先生、長崎明誠分会の森政次先生を囲んで楽しい一夜を過ごしました。

3人の先生はご挨拶の中で、長崎高教組との深いつながりを話され、また来年度からの過ごし方などを紹介されました。長崎南や明誠分会を中心に、高退教、本部と10数名の参加がありました。

【西彼支部】

2月17日の夜、レストラン菊水で、新加入者の歓迎会を行いました。青年教職員の新加入で大いに盛り上がりました。

参加者全員と本部に、西彼農業の生徒たちが丹精に育てた花

【大村支部】

2月7日午後、「富士松」にて「18歳選挙権」をテーマに支部教研が行なわれました。

参加者は11人でした。

寺田書記次長を講師に本部執行委員会作成の「『18歳選挙権』を上手に生かし、『主権者教育』の実践を－その視点とポイント－」学習資料を読み合わせました。その後「主権者教育」とはについて、思い思いの意見をだしあいました。教員の政治的中立性、知的障害の子どもたちへの主権者教育、選挙違反への学校としての指導のあり方、大人の政治参加の現状が危惧されるなかで高校生に政治参加させることの意味、など、職場で話題になっていることを出し合いました。

高校での主権者教育はまだ緒に就いたばかりですが、

- ○主権者にさせる(なっていくために)高校生に何を示すことができるか、すべきことは何か
- ○「市民」「公民」の言葉を新鮮なものと感じた
- ○高校生の主権者教育イコール大人の主権者教育である

などこの機会をのがしてはいけないことを確認することができました。

全教第33回定期大会

憲法改悪を許さず、憲法を守り、いかそう！
「戦争法」廃止　立憲主義、民主主義を取り戻そう！
「全教の未来をひらく大集会」の成功で強く大きく！

2月13・14日の両日、千代田区永田町の星陵会館に52の各都道府県教組、150人を越える大会代議員、専門部の特別代議員などが集まり、全教の第33回定期大会が開かれました。高教組から壱岐商分会の中鋪さんと小田委員長の2人が参加しました。

今年度の「憲法改悪を許さず、憲法を守り、いかすたたかい」をはじめとするとりくみの総括、そして来年度の運動方針の重要項目である「戦争法廃止のたたかい」や「『組織建設3か年計画』の総達成に向けたたたかい」などを大きな柱として、10本の議案が提案されました。

それを受けて、2日間でおおよそ7時間、68本、72人の討論参加があり、各組織の先進的なとりくみや創意工夫されたとりくみ、意見が発表されました。すべての議案が採決され、最後に、大会アピールが採択されて2日間の日程を終えました。長崎高教組は2日目の朝1番に演壇に立ち、委員長が「長崎高教組組織建設3か年計画」にもとづく組織拡大のとりくみ、そして青年教職員の中鋪さんが若い感性で発言を行い、大きな拍手をうけました。

本定期大会で、「3か年計画」の2年目のとりくみとして、「全教の未来をひらく大集会（仮称）」を、12月24・25日に沖縄で、１０００人規模で開催することが正式に提案されました。長崎高教組として、飛躍的な組織拡大をつくりだす契機ととらえ、「長崎高教組組織建設3か年計画」の支部、分会への浸透をすすめ、「大集会」の意義を確認し、目標を設定し、目標達成のためにとりくもうと決意しました。

全教定期大会に参加して－組合費は雇用保険料

壱岐商業分会　中鋪　優

まず、組合を代表して参加させていただいたことに厚く感謝を申し上げます。

2日間の大会を通して、全国の先生方が熱い思いをもって多くの問題に対してしっかり声を出し改善していきたいという思いが伝わってきました。

私も新規加入者として発表の機会をいただきました。私が組合に参加した経緯や1年間仕事をさせていただき感じたことをお話させていただきました。私は「組合費」は民間企業でいう「雇用保険料」であると感じています。教職員の権利や働きやすさ、労働条件の改善に取り組む上で必要なものであり、自分自身を守ることができるメリットを理解してもらう必要があると感じています。そして、加入者を増やすためには、これまでの取り組みなどをしっかり理解していただく必要性を感じています。

また、現場で働く先生方の声にもしっかり耳を傾けなければなりません。期限付きの講師の先生方にお話を伺ったところ「健康診断は自己負担」であるとのことでした。民間企業ではある一定以上の勤務を行う非正規のパート社員でさえ定期健康診断(法定項目)は事業主負担で行わなければならないとされています。模範となるべき公的機関でさえ、このようなコンプライアンスに違反する行為が多々見受けられるのです。

私もこの1年で多くの気づきがありました。今後は問題点などをしっかり声に出していけるように取り組んで参ります。今後とも、ご指導をよろしくお願いします。

SandyTrip ライブ & しゃべり場

下記の日程、会場で、佐世保在住の男女ユニット、サンディトリップのライブを計画しました。一年間頑張った自分のために、楽しみに来てください。すぐに申し込もう。

詳細は、「長崎高教組」のホームページを見てください。お待ちしています。

【佐世保会場】
3月１３日（日）　午後
佐世保市中央公民館
サンクル4番館　1F　講堂
三ヶ町ｱｰｹｰﾄﾞ　ｴﾚﾅ前

【長崎会場】
4月３日（日）　午後
セントヒル長崎
長崎駅より徒歩8分

1月30・31日、全国青年学習交流集会「TANE！ in 奈良」が開催され200名を超す青年教職員が集まりました。以下は長崎高教組からの参加者の報告です。

一日目の講義では「いい先生より幸せな先生になろう」というテーマのもと、生徒に自己肯定感を育ませるために、まずは教員自身が自分を褒め、愛することを教わりました。

一日目午後、そして二日目の分科会では「18歳選挙権」、「作文指導方法」など多くの

身近なテーマから自分が受けたい講義を選び、年齢の近い先生方同士で気兼ねなく授業づくりや教員のあり方を相談することができました。

他県の青年部活動を知ることが出来たり、授業実践を教わったりと、参加できたことを心から嬉しく思える、大変実りある交流集会でした。